

同志社大学

2015年度 個人研究費研究経過・成果報告書

2016年2月18日提出

所 属	職 名	氏 名
政策学部	教授	武蔵 勝宏
研 究 題 目	立法過程の日英比較	
研 究 成 果 の 概 要	<p>日本の統治機構はイギリスのウェストミンスターモデルを範に取り、多数決主義型の政治制度を採用するようになってきているが、他方で、多数決型の典型とされたイギリスでは、連立政権の発足や、貴族院の改革によって、多数決型モデルの見直しが迫られている。本研究は、こうした日英の議会及び立法過程の変容とその実態を検証することを目的とし、過去10年の日英の立法過程の変化を政治過程、政治構造の両面から検討したものである。研究の成果については、ペーパーの形でまとめ、研究会において報告を行い、専門家との討論を経て、論文として順次公刊を行った。</p> <p>成果物としては、下記のものがある。</p> <p>2015年3月の北海道大学立法過程研究会2014年度国際シンポジウム「二院制の比較研究」において、「国会審議の効率性と代表性」のテーマで口頭報告を行い、その成果が論文として、「国会審議の効率性と代表性：国会審議をどのように変えるべきか」北大法学論集,第65巻第5号301-326頁,2016年1月に掲載された。</p> <p>総合政策科学研究科20周年記念論文集、森本哲郎編著『現代日本の政治—持続と変化』法律文化社にも論文を投稿した。</p>	